

004 TICA

宮部みゆきは時代小説の方が面白いと思い始めた頃に宇江佐真理を読み出し、伊三次や権佐の切なさにはまり、テレビでは再（再再？）放送の『八丁堀の七人』の北町奉行所与力、青山久蔵にはまった。剣は達人だし、頭はいいし、いい男だし、背は高いし、カンペキすぎるものには反感があるのに青山さまは別。上からの圧力にも屈せず、仲間うちで嫌われることにも動じず、真底にある優しさに気がつく人も少なく誤解されまくりの人。思い切ってかっこつけてつっぱる孤高の人は素直に素敵。

昨日の夢に中居くんとカトゥーンの田中くんに混ざり、青山さまが出てきた。

やい、八。おめえはあめえなあ。行くぜい。

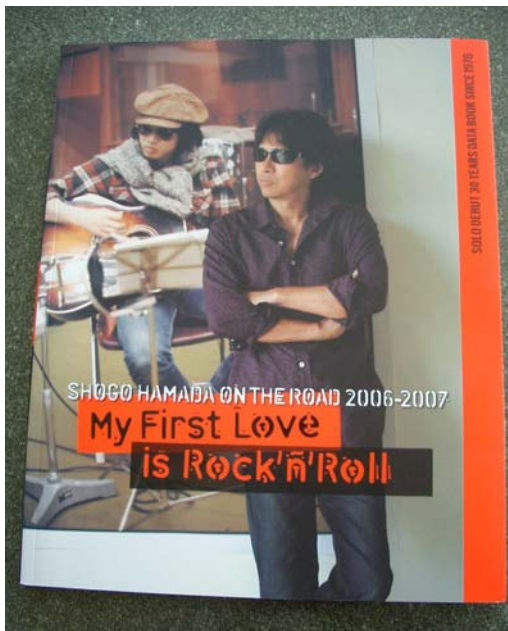


題名	著者	コメント	評価
七つの黒い夢 (新潮文庫)	乙一 他	乙一、恩田陸、北村薫、菅田哲也、西澤保彦、桜坂洋、岩井志麻子によるアンソロジー。勿論、乙一のために購入。	☆
隠し剣 孤影抄 (文春文庫)	藤沢 周平	C a c c o 推薦の『隠し剣鬼の爪』をテレビで見て面白かったので原作を読んだ。短編だと知ったときの嫌な予感のとおりのお話だった。あんな短い話を膨らませて、キャラクターも変え、標準語を方言に変えた山田洋次はすごい。武士のチャンバラものの潔さより、山本周五郎や宮部みゆきや宇江佐真理が書く切なさが好きだから映画の圧倒的勝利。	☆☆
斬られ権佐 (集英社文庫)	宇江佐真理	家業の仕立て屋をやりながら与力の手伝いをしている権佐。与力の想い人を助けたのがもとで88箇所傷を負い、その後遺症が残る身体で下手人を追う。最後で年月が何年も経ってしまい、生き生きと生活していた人たちのその後が悲しい。	☆☆☆ ☆☆
月に吠えろ！ 萩原朔太郎の 事件簿 (徳間書店)	鯨 統一郎	朔太郎の詩集「月に吠える」を「太陽に吠えろ」とかけた題名からして怪しいとは思った。山村暮鳥を語り手にして朔太郎を中心に室生犀星とのトリオが事件を解決していく中途半端なコメディタッチの連作集。事件はたいしたものじゃないので平塚らいてうなど実在の人間（これもかなり適当っぽいけど）や時代描写を楽しむ以外ない。朔太郎がこの話に出てくる朔太郎のような明るい性格だったらあんな暗い詩は書けないと思う。なんたって地面に顔があったりするんだからねえ。	☆

<p>MISSING (双葉文庫)</p>	<p>本多孝好</p>	<p>浜省以外に純粹に好きな歌というのがあって、その上位にランキングされるのが久保田の「MISSING」。で、同じタイトルだったから買って見た。そんな理由で買ったわりにははずれてなかった。4つの短編のどの登場人物にも共感はもてなかったけど、浅倉卓弥が書く小説みたいな透明感があった。この透明感ってのがクセモノで、『四日間の奇蹟』くらいじゃないとなんの印象も残らないからこの本は忘れると思う。</p>	<p>☆☆☆</p>
<p>銀の雨 堪忍旦那 為後勘八郎 (幻冬舎文庫)</p>	<p>宇江佐真理</p>	<p>温情ある差配をする定廻り同心、為後勘八郎と、勘八郎に正論でぶつかってくる岡部主馬との関係に勘八郎の娘の小夜を絡ませた連作集。娘を心配する父親の心情や岡っ引の抱えるそれぞれの事情は現代にも通じるものがある。同心を主役にしたものより、その下で動く下っ引たちの話やいい人が幸せになる話が好きなので、この連作集では、しじみ売りの少年と身を崩して生活している侍の話が一番のお気に入り。</p>	<p>☆☆☆☆</p>
<p>涙堂 琴女癸酉日記 (講談社文庫)</p>	<p>〃</p>	<p>同心をしていた夫が殺されて一人になった琴が絵師の末息子のもとに身を寄せ、町家暮らしの日常を日記に認める。前にも書いたけれど、宇江佐真理が主役にする女の人がどうも苦手。全体的におとなしめな印象の作品。</p>	<p>☆</p>
<p>動機 (文春文庫)</p>	<p>横山秀夫</p>	<p>再読。短編集。短編だけど、ひとつずつの話が重い。</p>	<p>☆☆☆</p>
<p>御宿かわせみ (文春文庫)</p>	<p>平岩弓枝</p>	<p>平岩弓枝を一度も読んだことがないので、この人を好きになれば沢山読むものがあるなと思って買った。読み終えたときにちょうどテレビで再放送をしていたので見てみたら高島礼子と中村橋之助が主役だった。本の方はシリーズ一作目だったせいかキャストが世慣れしすぎている感じで、特に中村橋之助は大袈裟すぎてがっかり。</p>	<p>☆☆☆</p>

<p>鏡の中は 日曜日 (講談社文庫)</p>	<p>殊能将之</p>	<p>別荘の間取り図が出ているから本格なのかと思ったら、わかる人にはわかるだろうってパロディらしい。なんのパロディかもわからない私に面白いはずがない。長編の次に『櫛』『榎』って短編がふたつ。密室ってこと？それを書きたかったのが主みたいでこれもどれもあれもそれも面白くなかった。</p>	<p>☆</p>
---------------------------------	-------------	--	----------

100 ページを越える立派な本は、コンサートグッズのツアーパンフレット。
なんと3500円もする！最初はTシャツだけにしといたんだけど、ステージが始まったとたん、やっぱ買おうと決心して休憩時間にお買い上げ。
中を見たらいつもの写真集とは違って30年間の軌跡がこと細かに書かれている。
重松清が文章を寄せていて、浜省は重松清の【その日のまえに】が好きだって書いてあった。同じよ、同じ。あれは泣けるよねって、ああ浜省に伝えたい。←ビョーキ？



表紙。
ソロデビューした30年前の『生まれたところを遠く離れて』のポスターの前に立つ浜省。今のが断然素敵 🍷



裏表紙。
乙一の『GOTH』かと思っちゃったよ。思わない、思わない。

まだ続くの… 🍷 🍷



『小林賢太郎戯曲集—home FLAT news』 幻冬舎文庫
ラーメンズの舞台のシナリオ

DVD

『POTSUNEN』『TEXT』『君の席』
『Jam Films 2』『小林賢太郎プロデュース公演
good day house』

節操がない。青山久蔵、浜田省吾と来て小林賢太郎と来る。
全く節操がない。せめて小林賢太郎は次回回しにしようと思っ
たけど、どうにも我慢がならん。

↓小林賢太郎
片桐仁↓

Cacco が貸してくれたDVD『POTSUNEN』で、
どっかーんと来て、衛星放送でやった『TEXT』で、
もお大夢中。こんなに夢中になったのは10年前に『青
空の扉』のステージを見て浜省にはまって以来のこと。
ラーメンズはイマドキのお笑いとは別分野。舞台ではど
んな役もこなし十分笑わせてくれ、NHK『トップラン
ナー』ではとても真面目な人だということがよくわかる。

『TEXT』はよく計算された脚本で、片方しか話さないパターンがあったり、次の話の
伏線が入っていたり、なんとって言葉遊びが劇的にうまい。小林賢太郎が本気で笑ってし
まう片桐仁のアドリブもものすごく楽しい。ちょっとやりすぎなところもあったけれど、
最後を< 銀河鉄道の夜 > っぽく感傷的に終るところで帳消しになる。

『good day house』の絵描きのオチでは、ガイジンみたいに おおお〜
と感嘆の声を出してしまった。ほんとにやることがうまいんだなあ。

それにしても私はいつも好きになるのが遅い。

青山久蔵は再々放送くらいで、浜省に至っては19枚目のアルバムのおかげで実にデビュー
から21年経っていた。ここでまたラーメンズ。キョーレツに一目惚れしたときにはす
でに結成して10年、デビューして8年、15回の公演を終えていた。触覚がまるで狭い範
囲にしか行ってないのが悲しい。NHKの『爆笑 ON AIR BATTLE』をCaccoに見るよ
うに勧められたときに、ただのお笑い番組だと思って見なかったのが悔やまれる。

で、ここ最近一生懸命ラーメンズを見てる。まずはDVDで。ぼすれんの会員になった。
あとはYou Tube というサイト。ここで100本くらいのコントを見た。『爆笑 ON AIR
BATTLE』『トップランナー』まで見た。おまけに着信音や似顔絵まで見つけて、携帯に
『girijin』と『帝王閣ホテル』を入れてにこにこしてる今日この頃。

もっと違う話をしたかったんだけど、何しろとうに締切過ぎてるのでこの辺にしときます。



こんにちは、パソコンです。

どうも、Macです。